ビワイチサイクリングにおける景観特性に関する研究

木藤　大吾　（生涯スポーツ学科　野外スポーツコース）
指導教員　黒澤　毅

キーワード:ビワイチサイクリング，景観評価，サイクルツーリズム

1. 緒言

土井[2]は,アウトドアツーリズムを切り口とした都市・地域振興の可能性について重要性が増していることを明らかにした．また滋賀県[3]では2014年から観光振興に向け，全国・世界から琵琶湖への観光客を推進しており，その事業の一つにビワイチサイクリングを推進している．しかし,滋賀県は，観光に関する各種調査の都道府県順位では,下位に低迷しており,観光地としての認知度は高いとは言えない．そこで本研究は，ビワイチサイクリングにおける景観評価から,「ビワイチ」特有の景観特性を明らかにすることを目的とする．

2. 研究方法

本研究は，大学5名(男子3名，女子2名)を対象とした.また，本研究で提案する手法として,被験者自身の携帯端末機で写真投影[1]を行い，得られた撮影地点のポイントデータと被験者のフィードバックシートを参考に，探索的な分析をする．

3. 結果と考察

得られた48枚の写真データとフィードバックシートを基に，景観カテゴリー別に写真の分類を行った．

分類方法は,杉本[4]の観光者の視覚的体験情報に基づいた回遊空間の評価の研究で用いられた写真データの分類方法を参考に作成した．分類は図1のフローに従った．

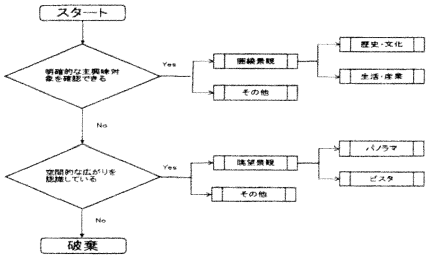

図1　景観カテゴリー別のフロー図(杉本[4]の写真分類方法に筆者が修正、加筆)

分類した景観評価の分布を,図2,図3に示す.図2から,湖北地域は見通しのいい空間が広がっているため，自然資源を眺望しやすい環境にあることから，空間的広がりの対象は，湖北へ北上するにつれ景観評価が多くなる傾向があった．また，図3から明確的な主興味対象による景観評価は全体的に散布しているが，湖北地域では景観評価が行われなかった．要因として，南湖の湖周地域は，都市化していることにより交通量も多く，景観と被験者との距離が近くなることから，湖北の様な空間的に景観を捉えた自然景観ではなく，構造物や管理施設など,明確な主興味対象を景観資源とした景観評価を行う傾向が多くあった．

また，竹本ら[5]は，自転車での観光回遊は，歩行者と同じ程度に認知，もしくはそれ以上に認知していると述べていることから，豊富な歴史的景観資源を有する南湖特有のサイクルツアーも必要であろう．

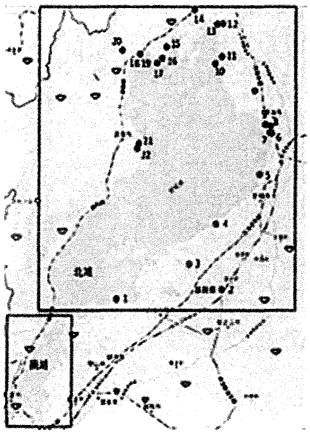

図2　空間的広がりの分布図

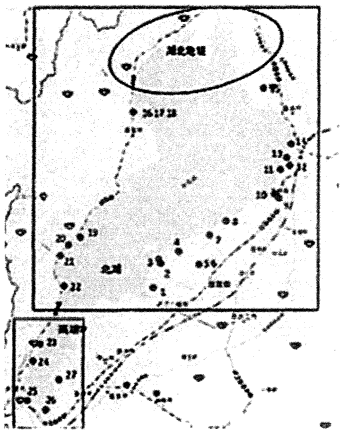

図3　明確的な主興味対象の分布図

4. まとめ

フィードバックシートを参考に考察したところ,「ビワイチ」におけるニーズの1つとして，見通しの良い自然景観を疾走する爽快感にある．一方，南湖では,空間的景観評価が行われなかったことから，被験者の捉える景観との距離が，感じる魅力や興味に影響していた．

引用・参考文献

1)赤沢勝洋(2011):写真投影法を用いた観光地の空間イメージ情報の抽出,農林業問題研究(第183号),p126-131

2)土井昭(2004):アウトドア・ツーリズム都市構築の可能性-自然環境と観光を活かした自治体の活性化戦略-,「創造都市研究」9巻1号,(大阪市立大学院創造都市研究科電子ジャーナル)，p67

3)「観光交流」振興指針，p1-43，(2014)(www.pref.shiga.lgjp/f/kanko/vision/files/shisinn.pdf)，滋賀県

4)杉本興運(2012):観光者の視覚的体験に基づく回遊空間の評価-デジタルカメラ,GPS,GIS,を活用した分析手法-,p39-49

5)竹本淳・深堀清隆・窪田洋一(2005):自転車による街路回遊時の景観認識特性